



2002年 事業報告書



特定非営利活動法人
アジア日本相互交流センター



活動地域の現状

P.2-3

ジェネラルサントス(南部ミンダナオ)での活動(里親・給食)

P.4-5

パヤタス(首都圏のごみ処分場)での活動(医療・職業訓練)

P.6-7

フェアトレード(マニラ&日本)

P.8-9

サンイシロ(リザール州山村)での活動(山村教育)

P. 10

スタディーツアー

P. 11

国際理解教育事業

P.12-13

事務局活動(日本事務局、マニラ事務局)

P.14

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-20-11NPOプラザなごや2F

TEL&FAX 052-582-2244 E-mail ican@jca.apc.org

ホームページ: <http://www.jca.apc.org/ican/>

パヤタス

マニラ首都圏、ケソン市郊外のパヤタス地区には、マニラから出るごみの1/4以上、およそ千トンのごみが運び込まれるごみ処分場がある。このごみ処分場は、高さ30m、広さ10数haに及ぶ巨大なごみの山となっている。

ここでは、2000人以上の周辺住民が、捨てられているごみを分別収集し、それを換金して、生計を立てている。

ごみ山に隣接するコミュニティは、常にごみ山から排出される煙や排水に曝されており、健康被害は深刻になっている。

ここで、周辺住民を対象に、医療・栄養面を改善する医療支援と、ごみ拾い以外の技術を身につける職業訓練、訓練で得た技術を収入につなげるフェアトレード事業を実施している。



ジェネラルサントス

ミンダナオ島の南部にあるジェネラルサントス市は人口32万人程の地方都市で、イスラム系武装勢力の影響を受ける地区にあり、約半数が貧困層だと言われている。

一般に家は子沢山で、子どもが働くことで何とか生計を維持しているが、子ども達が十分な教育を受けないまま成人し、次の世代は更に貧困になるという悪循環にある。

この悪循環を断ち切るため、子ども達が正当な教育を受けられるように、里親(通学)支援と給食支援の二つの支援事業を行っている。



サンイシロ

リザール州アンティポロ市の北30km程に位置する、山村サンイシロには、ドゥマガット族などの先住民が多数生活している。電気や水道、病院等のインフラが整っておらず、教育施設も不十分で識字率も低い。住民の多くは農業で生計を立てているが、焼畑や灌漑のない水田での収穫は十分ではなく、収穫直前には食料が底をつくことが多い。

ここでは、先住民が誇りを持って生きられるように、プレスクールや奨学金等、教育支援を行っている。



活動地区の人々と理解しあうために (日本での活動)

フィリピンでの活動地区に生きる人々を支えるとともに、その生活実態を日本の一般の方に理解して頂けるように、日本において、国際理解教育、フェアトレード、翻訳、活動報告などを実施している。

特に2002年は国際理解連続講座、写真展、学校訪問授業、フェアトレード品販売に注力し、多くのボランティアさんや学校、店舗などに、さまざまな形態での協力を得て実施した。



里親(通学)支援事業

1)実施内容

ジェネラルサントス周辺に住む貧しい家庭の子ども達が学校に通えるよう、学費・学用品・通学用衣類・交通費・医療費等を提供した。単にお金や物を提供するだけでなく、ソーシャルワーカーが、子ども達の家族を対象に、衛生や栄養改善など基本的な生活指導、職業・生活相談等を行った。



里子一同でのレクリエーション

2)実績 < 奨学生135名 >

4～5月 学校への登録、学用品の配布等
通学準備

年4回 生活指導ミーティング

年2回 家庭訪問調査、コンサルティング
随時 子ども達への補習指導

特に重点的な支援が必要な子どもには、親との面接回数を増やし、交通費や昼食代なども支給した。



卒業式(2002.3月)

3)事業費支出内訳 (1ペソ(PHP) = 2.476円)

L&Lへの送金 1,727,377円

既報告分 (2002.12まで) 内訳

学費・制服代	664,693円 (268,454.3PHP)
重点支援分	28,622円 (11,560PHP)
医療費	62,169円 (25,108.8PHP)
生活指導MT	149,943円 (60,558.45PHP)
L&L人件費	326,832円 (132,000PHP)
L&L運営費	137,512円 (55,539.99PHP)
小計	1,369,771円 (553,219.54PHP)

事業委託費の残金357,606円は、2003年1-3月に事業費として使われる予定

現地団体Love and LifeのスタッフGrecildaさんからのメッセージ

こんにちは、里親の皆様。お元気ですか？ ここジェネラルサントスで皆様の支援を受けている子ども達は、微熱や風邪のために薬をもらいにくる子が何人かいたほかは、みんな元気で学校に通っています。ご安心ください。

子ども達はL&Lのミーティングではもちろん、学校や隣近所でも自分たちの里親について話しています。彼らは皆様のことを誇りに思っているようです。もし写真など送って頂ければ、子ども達にとってこの上もないプレゼントになると思います。

この春、17名の子どもが小学校を卒業します。ハイスクール生達も、わからないことがあると、L&Lの事務所に来て勉強を教わるなど頑張っています。

今後とも、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

給食支援事業

1) 実施内容

イスラム教徒などの少数民族が多く住む地域の小学校で、栄養状態のよくない子ども達に栄養価の高い給食を提供し、栄養状態や健康面の改善、就学率の向上を図った。

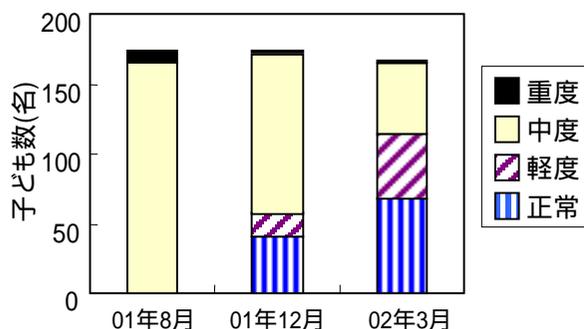
これによりイスラムコミュニティと地域の融和、子ども達への平和教育などに結び付け、地域の安定に寄与した。

2) 実績

フィリピン国南コタバト州ジェネラルサントスの5校で主に、栄養失調度の重度と中度の子どもを対象に実施。

A. 1～3月

P. Kindat小学校(PKES)	80名、	6回
Sarif Mucsin小学校(SMES)	80名、	12回
Bawing小学校(BES)	180名、	12回



Bawing小学校の栄養状態の推移
01年の開始時に比べ栄養状態が改善！

B. 6～12月 (各校からの報告待ち)

PKES	50名
SMES	120名
BES	100名
Upper Tambler小学校(UTES)	100名
Dadiangas East小学校(DEES)	50名

SMESとBESの2校では、校長転出に伴う引継ぎのため、6～9月までの4ヶ月休止。10月から再開。

3) 事業費支出内訳 (1ペソ = 2.396624円)

学校への送金 184,558円

既報告分 (2002.9まで) 内訳

食費・年老 86,810円 (36,218.05PHP)

交通費・報告 12,593円 (5,254PHP)

小計 99,403円 (41,472.054PHP)

残金85,155円(10月以降分)は各校からの報告待ち

その他(含、送金手数料)2,609円

合計 187,167円



給食を食べる子どもたち(PKES)

給食が出来るまで



栄養士がメニューを考え、先生が材料を購入(UTES)



調理。子ども達もお手伝い(BES)



配膳。いい香りです。(SMES)

医療支援事業

1) 事業内容

パヤタスごみ処分場周辺で地域住民の健康を高めるために、SALTと共同で、以下の医療支援活動を行った。

- a) 毎週土曜日の無料診療活動
- b) 栄養不良児の栄養補給のための給食と母親のためのセミナーの開催
- c) 薬を半額で住民に提供する住民薬局の運営（土曜日のみ）

2) 活動実績

< 無料診療 >

パヤタスにある住民薬局で実施。

- ・ 診療時間は、土曜の午後3時間。
- ・ 診療科目は、内科、皮膚科、歯科、小児科。
- ・ フィリピン人医師と現地調整員(AC)が協力して実施。



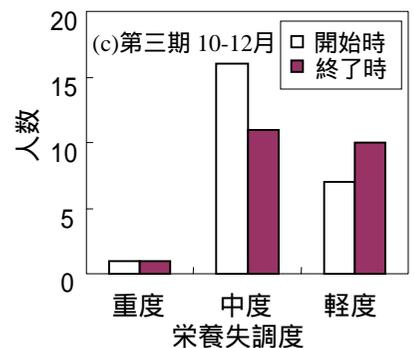
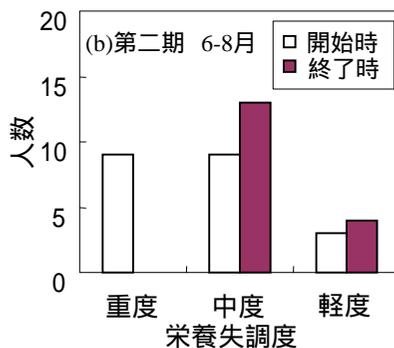
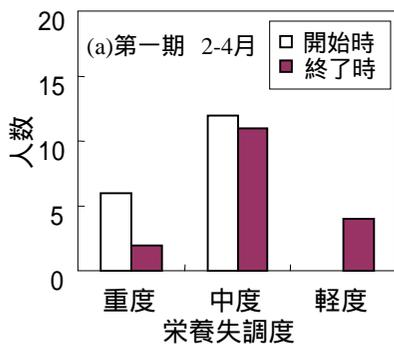
【受診者の特徴】

- 1) 合計46回実施 のべ943名が受診。
- 2) ゴミ捨て場から排出される煙に曝されているため、気管支系の病気が多かった。
- 3) 15歳未満の割合が7割と高かった。



< 栄養改善 >

原則週3回(月・水・金)にパヤタス周辺の栄養不良児(3才未満)に対して栄養価の高い食事を提供した。



< 住民薬局 >

毎週土曜日、周辺住民に対して医薬品を半額で販売した。毎月2~5千ペソ程度の売上があった。

住民のニーズは高く、引続き、平日の営業に向けて関係機関と調整を続けている。

3) 事業費支出内訳 (1ペソ(PHP) = 2.396624円)

無料診療(医師謝礼等)	147,494円	(61,542.35PHP)
栄養改善(食費等)	154,200円	(64,340.60PHP)
住民薬局(賃貸料,AC人件費)	296,798円	(123,840 PHP)
フィリピン人スタッフ人件費	88,660円	(36,993.95PHP)
水質調査	32,853円	(13,708 PHP)
寄付者の送金手数料を負担	4,616円	
支出	724,621円	

職業訓練支援事業

1) 事業内容

パヤタスごみ処分場に隣接したルパン・パガコ地区に住む経済的に貧しい地域住民を対象に、危険なごみ捨て場で働かなくても、経済的に自立できるように、必要な技術を身につけるための職業訓練を行った。講師は以前の受講生が務めた。

2) 実績および評価

< 服飾講習会(全12回) > 参加者 8名。6名修了。
講師 シャーリーさん、レイナリンさん
ブラウスやノースリーブ、スカートの作り方を学んだ。
(実施日)3月17,24日、4月7,14,28日、5月5,12,19,26日、6月2,9,23日

< ぬいぐるみ講習会(全8回) > 参加者11名。2名修了。
講師 バンジーさん、ヴィーナさん
くまなどのぬいぐるみの製作のトレーニングを行った。
(実施日) 8月10,17,31日、9月7,14,21,28日、10月6日

< リーダーシップ研修(全11回) >
参加者16名。14名修了。
作業所メンバーを対象に、運営能力向上研修を行った。労働倫理・価値・紀律、チーム作り、自己評価法、計画立案法を学んだ。メンバーから組織運営について、積極的な発言が聞かれるようになった。

(実施日) 4月18日、7月17,31日、8月14,28日、9月4,25日、10月9,12,15日、12月20日



服飾の講師のシャーリーさんと子ども達



作業所運営に携わる女性たち

3) 事業費支出内訳 (1PHP=2.396624円)

講師謝礼	6,519円 (2,720 PHP)
材料費	8,089円 (3,375.05PHP)
訓練所賃貸料	35,230円 (14,700 PHP)
マシン購入	27,561円 (11,500 PHP)
事務費等	8,494円
支出	85,893円

新しいスタッフ、テスさんをご紹介します！

テスさんは、パヤタスの作業所にいつも「ハァーイ」と大きな声で現れ、メンバーひとり一人に話しかけてみんなの顔をほころばせ、作業所をあっという間に賑やかにしてしまいます。

作業所のメンバーとのミーティングでは、ある時は辛抱強く説明をくりかえし、ある時はじっと黙ってメンバーの話を聞きます。

栄養改善のための給食プログラムで、やって来る家族の健康状態をチェックしながらも、その子ども達と一緒によく遊びます。大人を見ればその子どもに声をかけ、子どもを見ればその親に気を配る人です。

暖かい気持ちを持った有能なスタッフ、テスさんを宜しく。



右がテスさん(左は伊藤)

フェアトレード支援事業

1) 事業内容

パヤタスでは、職業訓練で技術を身に付けた女性達が、収入を得られるように作業所を主体的に運営している。材料の仕入れ、品質管理、販売、労賃の支払も女性達自身で行っている。定期的に自分達の課題を話し合うミーティングをもち、自分達で運営するという気持ちが定着しつつある。

女性達を支える体制作りも進みつつある。マニラでも、日本でも、多くの方々にご協力頂いて販売額を伸ばした。

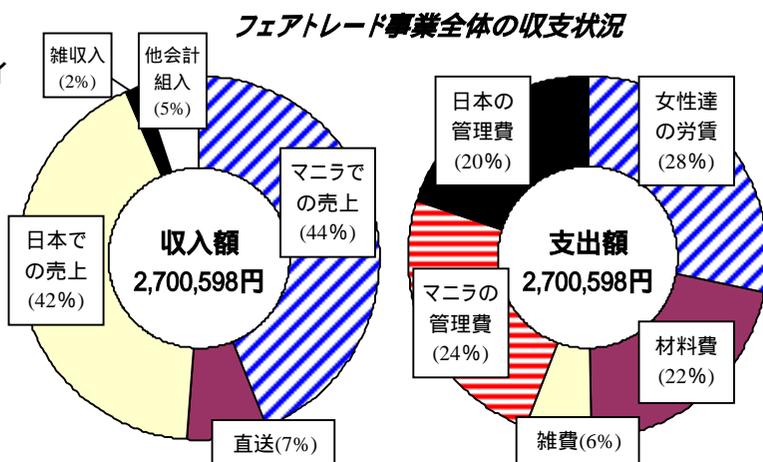


マニラのショッピングモールでの販売風景

2) 実績

<収入> マニラでチャリティショップを3ヶ月出展する機会に恵まれ、来客が縁で後日発注して頂いた企業もあり、マニラでの売上げが伸びた。日本では、主に、店舗への委託販売、国際協力イベントのバザーや学校の文化祭などで売上げ、昨年並みの売上となった。

<支出> 活動を通して女性達は76万円の労賃として得ることができた。材料費と雑費を含めた直接経費は56%。管理費の割合が前年よりも増えたが、女性達へのリーダーシップ研修や販売促進などのために人件費が上がった影響である。



<現地滞在ボランティアの協力>

マニラでの活動は、現地ボランティアの協力が非常に大きかった。会計や検品等の作業所の手伝いはもちろん、販売の補佐、大学や語学学校での広報など、積極的に行った。

また、パヤタスでの絵本の読み聞かせやリーダーコンサートなども行い、パヤタスの住民を精神面でもサポートした。



作業所で発案・製作された「モジャコ」



< マニラでの販売 >



マニラでの主な販売協力団体（敬称略）

AKO、IVY、Zoey、Evans、XY、東京国際大学、ACCE、立命館ハビタット、同志社ハビタット、ACTION、静岡大学、足利東ロータリークラブ、ふれんどしっぷアジア、小野寺グループ
マニラ日本人会、日本人学校、CLSC（語学学校）、フィリピン大学、SALT

< 日本での販売 >

- ・日本でもボランティアさんが活躍



フィリピンから届いたぬいぐるみを整理



日本でのバザー風景、子どもも活躍

- ・学校での協力も進展



高校の文化祭で販売（亀山高校）



募金やパネル展示もしました

日本の主な販売協力団体（敬称略）

フィリピン友情基金、東海市国際交流協会、名古屋YWCA、ドリーム、漫遊堂、ECC名古屋校、オゾン、北美容師組合、地球の木、アトリエステップ、ドリーム、風's、茶運亭、夢中食堂、NTTデータ、シネマスコレ、ぷうーく、ACCE、サロン・ド・オーノ、キャンヘルプタイランド、INE
名古屋西高校、長生高校JRC部、名古屋外国語大学、愛知大学CCC、高蔵高校、向陽高校、亀山高校、都立国際高校、豊明中央小学校、童子山小学校

山村教育支援事業(サンイシロ)

1) 事業内容

山村サンイシロにおいて、先住民が誇りを持って生きられるよう、教育水準や生活水準向上を支援するために、以下の活動を行った。

- a) 住民組織MASAKAが運営するプレスクール(幼稚園)の運営を支援した。
- b) 先住民の子どもが小学校やハイスクールに通学できるよう奨学金を提供した。



プレスクールの子どもたち

2) 実績

プレスクール：少数民族の子どもを対象に、読み書き、理科、社会、算数、体育、図工などの基礎教育を行った。キンダーでは5～9歳の11名が、ナーサリーでは3～5歳までの6名が学んだ。

奨学金：小学校6年からハイスクール3年生の11名の子ども達に、奨学金を提供し、学校へ通う支援をした。



奨学生

3) 事業費支出内訳

	(1ペソ(PHP) = 2.396624円)
プレスクール	101,333円 (42,281.75PHP)
(先生への謝礼、文房具等)	
奨学金	34,501円 (14,395.75PHP)
(奨学生の学費、文房具、制服等)	
村への交通費	3,020円 (1,260 PHP)
支出	138,854円

奨学生(ロベリンちゃん)からのメッセージ

日本の友達の皆さん、皆様のご支援に心から感謝しています。ここサンイシロでは、公立小学校の学年は、5年生までしかありません。6年生になった今年から、奨学金を受けて、私立の学校に通っています。奨学生になれて本当にうれしいです。お陰で勉強できます。科目はフィリピン語、英語、科学、社会、図工、音楽、道徳、体育で、私はフィリピン語と体育が好きです。嫌いな科目は算数です。

授業は先生が各学年の教室を順番にまわりながら教えてくれます。先生が教室にいる間はみな静かに聞いていますが、先生が他の学年の教室に行ってしまうと教室はとたんににぎやかになります。私の学年は全部で15人。一緒に登校するなど、下級生の面倒をみることもあります。

これからも、私たちを続けてご支援くださいますように。

スタディーツアー事業

1) 実施内容

フィリピンで行われている支援事業や生活困窮者の人たちの現状を視察し、現地住民と参加者との交流を図った。パヤタスを訪問し、1泊ホームステイ、交流会、子ども達への本の読み聞かせ。医療、職業訓練などの支援活動に参加した。

2) 実施形態 当法人が企画、旅行代理店に委託して実施

3) 実施時期と参加者(引率者を含)
第1回 7月25～31日 5名参加。
第2回 8月22～28日 12名参加。



パヤタスの子どもたち



ホームステイ先の子もたちと

4) 収支状況 (1ペソ = 2.396624円)

収入 参加費 739,880円

支出(事業費) スタッフ渡航費 76,950円
交通費 48,517円
食費 60,889円
宿泊費等 41,186円
謝礼金 101,185円
小計 328,727円

収支差額 267,349円

(管理費) 人件費 238,516円
事務費&通信費等 21,313円
パソコン購入 189,525円
租税公課 69,818円
税理士謝礼金 173,000円
小計 692,172円

パヤタスでのホームステイを受入れて

初めて、パヤタスでホームステイを受入れると、聞いた時には、色々不安もありましたが、結局、参加者の方も、そして私も1番楽しかったのは、ホームステイでした。1日パヤタスにいて、多くの事を体験することができたと思います。子ども達と汗びしょりになりながらも、思いっきり走り、踊り、さすがに夜には疲れましたがフィリピンの遊びを色々知ることができ、子どもの頃に返ったように遊べました。

現地ボランティア 田村 陽子



一週間程経って、パヤタスに行くと、子ども達は、しきりに参加者の名前を言って、なぜ今日は来ないのかと聞いていました。日本に帰ったと聞くと寂しそうでしたが、一緒に遊べて楽しかったと言っていました。私が、「またパヤタスに来たいと言っていたよ」と言うと、「いつ、いつ、日曜日?」と。

ホームステイ先のお母さんたちは、日本に無事に着いたのかと心配しておられました。皆さん、また、ぜひパヤタスに来て下さいね。

*)2002年のマニラでの活動では、田村さん、竹内さん、棚橋さん、磯谷さんの4名のボランティアの方々に支えられました。ご協力ありがとうございました。 - 11 -

国際理解教育事業

1) 事業内容

日本の生徒や一般の方に、フィリピンやアジアで厳しい生活環境にある人々の生活、児童労働の実情を伝え、国際協力に対する理解を深めるために、講座、写真展、講師派遣などを実施した。また、現地の子どもへのカードや文房具の発送も行った。



国際理解講座の一コマ



写真展で講演する宇田さん

2) 活動実績

- a. 国際理解講座の開催 (6/29、8/4、9/21 3回)
- b. 宇田有三写真展「世界のゴミ捨て場から」の開催 (7/29～8/3)
- c. 現地スタッフ帰国講演会の開催 (11/3.4)
- d. 国際理解教育を扱った授業への講師派遣 (出前講座12校、千名以上の子どもが参加)
- e. 「神の子」上映会への協力(11/16)
- f. フィリピン子ども達へのカードの送付 (6・12月の2回で1000通程度)
- g. フィリピン子ども達への文房具の送付 (ダンボール38箱)

< 学校での授業などへの協力 2002年 >

小学校から短大まで学校からのニーズに答え、講師を派遣し、20～800名を対象に、様々な形式の授業を提供した。(日程は右表を参照。)

・フィリピンの現状とICANの活動を報告・
質疑応答や意見交換を行った学校
高蔵高校、犬山中学、丸の内中学、
白子高校、日本赤十字短期大学、
安城南高校、菊里高校

・フィリピンの家族の生活を擬似体験する
ワークショップを行った学校
小坂井高校、豊明中央小学校

・「NGOの仕事」「国際協力ボランティア」
「南北問題」など、テーマ講演を行った学校
山田東中学、藤枝女子高校、森孝中学

代表例について、次のページに示した。

- | | |
|-----|---|
| 3月 | 高蔵高校(名古屋市)訪問 |
| 6月 | 犬山中学校(犬山市)訪問 |
| 9月 | 山田東中学校(名古屋市)訪問
丸の内中学生(atあいち国際プラザ)
小坂井高校(宝飯郡)訪問 |
| 10月 | 藤枝女子高校(藤枝市)訪問
森孝中学校(名古屋市)訪問
白子高校(鈴鹿市)訪問
菊里高校(名古屋市)訪問
豊明中央小学校(豊明市)訪問 |
| 11月 | 安城南高校(安城市)訪問
日本赤十字短大(名古屋市)訪問
(FICAP代表パージー石原さんと合同) |

< 学校等への写真展用写真の貸出 >
和光国際高校、小浜ライオンズクラブ
愛知高校、名古屋外国語大学、
豊明中央小学校、伊丹市国際交流協会

学校訪問授業の例1 小学校で5年生30人を対象に、参加型ワークショップ(豊明中央小学校)

現地スタッフや事務局ボランティアも交えて学校を訪問行った。フィリピンのココヤシ農園で働く家族が地方で食べていくことができず、仕事を求めてマニラやパヤタスに行くまでを擬似体験する参加型ワークショップを行った。子ども達は、生計を立てるのが困難な貧困層の生活環境について、実感を持って分かりやすく学ぶことができた。

後日は、子どもたちは自分達でもできることを話合パヤタスの女性達の自立を支援するフェアトレード製品の販売と募金活動を実施した。



(生徒の感想)

- ・フィリピンの人たちは働いてお金をもらって食べ物しか買えなくて、おもちゃや本もあまり買えないなんて、かわいそうだと思いました。
- ・疑似体験で外国の子どもになりました。バケツ運びの労働では、水をこぼしたり落としたりするとくびなので、ドキドキしました。楽しかったです。
- ・ICANの人が手をパンパンとたたくと、一日の始まりです。みんな学校へ行かないで食料をもらうために働いていました。



学校訪問授業の例2 中学校で2年生54人を対象に、活動紹介(丸の内中学校)

まず、緊張をほぐすために、生徒に「国際協力と聞いて思いつくもの」を紙に描いて貰い、その内容をお互いに紹介し、関心のあることを共有した。

次に、ICANのスタッフとボランティアが写真等を使って、パヤタスでゴミを拾って生きる人々の現状やICANの活動等を紹介した。

最後に、生徒にICANのスタッフやボランティアが交じてグループに分かれ、意見交換した。短い時間だったが、生徒たちの率直な感想が聞かれた。

(生徒の感想)

- ・今は高校入試で忙しいけれど、時間ができたら募金やボランティアなどにぜひ参加したい。
- ・あんなに大きなごみの山があること、そこで働いてる大人や子どもがたくさんいることが信じられなかった。今は方法がわからないけど、何とかしたい。



3) 事業支出

学校訪問	20,770円
国際理解講座	413,565円
写真展	172,984円
プロジェクト購入	278,670円
カードの送付	16,350円
文房具の送付	156,350円
支出合計	1,058,689円

*) 国際理解関連で98.5万円の助成金があり、国際理解講座、写真展、プロジェクトの原資には、主に助成金を用いた。

事務局活動

(1) 日本事務局

1) 実施内容

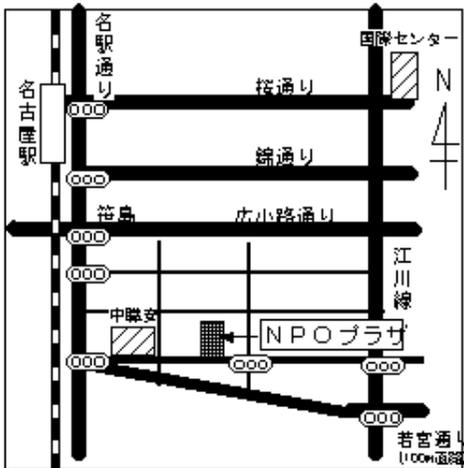
経済的に厳しい生活環境にあるフィリピンの人たちや子ども達の自立支援と課題の共有のため、日本事務局にてプロジェクト全般に関する活動を行った。法人の活動全般にわたる事務および経理作業、助成の申請、報告書の作成、会員・一般の方からの問い合わせ対応などを行った。また、国際理解講座や写真展、海外スタッフ帰国報告会、出張出前講座などの国際理解教育事業や日本国内でのフェアトレードの販売促進、海外ボランティアの研修、会報の編集・発送などを行った。

2) 実施場所

ICAN日本事務所
名古屋国際センター他

3) 実施形態

有給スタッフ1名、理事3名、
ボランティア50名が協力して実施



(2) マニラ事務局

1) 実施内容

マニラ事務局にて、パヤタスでの医療、職業訓練、フェアトレード支援、サンイシロでの山村教育支援を運営した。支援事業の経理や報告、問合せへの対応など現地活動の充実・発展を図った。また、事務の迅速化や現地調整の向上のため、現地に赴任するボランティアを4名受け入れた。

2) 実施場所

ICANマニラ事務所

3) 実施形態

有給スタッフ2名、ボランティア10名が
協力して実施。

